

氏名(本籍)	飯村友紀(埼玉県)		
学位の種類	博士(政治学)		
学位記番号	博甲第4886号		
学位授与年月日	平成21年3月25日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	人文社会科学研究科		
学位論文題目	朝鮮労働党の経済政策—社会主義経済システム維持の試みとその挫折—		
主査	筑波大学教授	博士(法学)	古田博司
副査	筑波大学教授	法学博士	松岡完
副査	筑波大学教授	博士(政治学)	中村逸郎
副査	筑波大学准教授	博士(法学)	南山淳

### 論文の内容の要旨

本論文は北朝鮮経済政策について、事例研究による実証的分析を試みたものであり、考察に際しては、北朝鮮が掲げる社会主義経済制度の根幹を「社会的所有・国家(党)による指導・計画経済・重工業優先路線」と定義し、「社会主義経済システム」の用語でそれらを総称して分析枠組みに利用している。具体的には、北朝鮮の経済政策を「社会主義経済システムを維持するために実施される施策」と捉え、朝鮮労働党が社会主義経済システムの維持のためにいかなる政策的手法をとるのか、そこにはいかなる認識が通底しているのかに着目する。そして事例分析より得た知見を類型化することにより、経済政策に内在する朝鮮労働党の思考様式の特徴を分析し、そのような思考様式が北朝鮮経済全体にいかなる影響を及ぼしたのかを解明することが、本論文の目的である。第1章はこのような研究目的や問題の設定、研究方法の提示、先行研究の概観にあてられている。

続く第2章では、1950年代から始まる農業政策「主体農法」の起源と具体的内容、時代的変遷の分析が行われる。北朝鮮において、重工業部門への投資集中路線に農業を従属させることを企図した農業政策が登場するのは1956年に始まる五カ年計画期のことであり、それは多収穫品種であるトウモロコシへの生産集中・耕地拡大・大量施肥という形をとって実行された。1970年代に至って、これらの政策には「主体農法」の語が冠せられてスローガン化され、また1990年代後半にはジャガイモ導入や大規模土地整理、有機肥料の開発などの分野で同農法が継承された。

このような経緯から、北朝鮮が根本的な問題意識(重工業優先と農業投資の抑制)を維持したまま、表面的な政策転換を行ったことを指摘し、この点を北朝鮮経済政策の特徴のひとつとして挙げている。

第3章では、1970年代に開始された「三大革命小組運動」の展開過程を考察する。これは志操堅固な大学生からなる小集団を生産単位に派遣し、生産活動の指導を行わせる運動であった。しかし実際には、中央から小組を直接派遣して地方に独自の組織を形成し、地方党組織を掣肘・監視させることで増産を図るといふ政策的意図に基づくものであった。

このような動きは直ちに地方党組織の反発を招き、両者の間には緊張が生じた。資料からは、それに対処して、1970年代には小組の指揮系統の強化と地方党組織からの分離処置が試みられたこと、1980年代に至っ

ては逆に小組を地方党組織の中に吸収する措置がとられたことが看取可能である。そしてその後、小組に対して党組織と住民の仲介者、かつ技術者集団という記述が定着することから、吸収された小組は地方党組織の従僕というべき存在へと転化したことが推測される。北朝鮮における党組織刷新による経済浮揚の困難さが、本章の知見である。

第4章では、1980年代に経済低迷への対応策として行われた効率化の試み、特に「軽工業革命」と総称される日用品増産運動、そして単位間の連携強化を目的とする「連合企業所」の形成と独立採算制を考察している。これらは重工業偏重の是正と地方への権限付与を目指す画期的な試みであったが、実際には、あくまで従来の政策の延長線上に位置付けられ、まさにそのために失敗に帰すこととなった。例えば、軽工業の発展が重工業にも寄与すると唱えた「軽工業革命」の場合、その真意は日用品を各単位の自力解決によって生産させ、その利益を吸収することによって、経済状況の悪化で減少した重工業部門への投資を維持するところに存しており、一種の非公認経済部門を生み出す結果を招来した。また、地方機構の改編を伴って形成された連合企業所と、その効率的な運営のために導入されたはずの独立採算制は、企業所への一定の自治権付与によって生産計画の作成・執行を厳密化し、それを増産につなげようとするものであったが、結局、計画作成技術や評価基準の不備、そして技術水準の不足のために十全に機能しなかったのである。

以上のような「効率化」政策の帰結から、本章は北朝鮮の重工業優先路線への執着と政策転換に対する抵抗、そして既存の制度の「補強」への志向を指摘している。

第5章では、1997年に登場した「先軍政治」の経済部門への適用に関し分析を行っている。具体的には、当時より活発化したモデル農場への除隊軍人の大量「進出」（移住）の事例に着目し、「先軍政治」のロジックとの比較を通じて、除隊軍人に対し「先軍政治」により実現されるという軍と民の協力関係の仲介者としての役割が付与されていること、その背景に軍事部門の負担を民間に転嫁させんとする意図が存在することが指摘される。また、2003年より表面化した軍事工業優先路線に注目し、それに伴って資本・インフラが軍事部門に集中していること、そして民生部門においては非公認経済の伸長によりインフレが拡大したこと、2002年7月に行われたとされる「経済改革」が、実際には闇価格と公定価格を接近させてインフレの解消を図ったものであったことを挙げている。

このような分析に基づき、現在の北朝鮮経済が軍事産業と一般経済に分離している点、そして、軍事工業への集中投資や核開発の公言によってもたらされる強硬なイメージとは裏腹に、一般工業から分離して投資を集中しなければ軍事工業を維持できないまでに北朝鮮の経済規模が縮小している点が指摘される。

最後に第6章では、以上の分析の総括が行われる。具体的には、社会主義経済システムという与件の下で採用しうる経済浮揚策の適用の幅が極めて狭いために、「蓄積源の確保と最大化」「財の運用の効率化（制度の補強）」「既存制度の拡大解釈によるシステム改編」という施策が反復されたこと、そのような弥縫策が制度的疲弊を経てその効果を遞減させること、既存制度の拡大解釈によって採用された「新たな」制度が計画外の経済活動を招来し、次第にそれらを追認・黙認するものへと転化すること、このような政策的手法の継続的使用が経済状況を一層悪化させ、朝鮮労働党が経済部門に対して行使しうる「テコ」（介入の余地）がさらに減少することの4点が、経済政策に内包された朝鮮労働党の思考様式の特徴として提示されている。

その上で、これらの経済政策が北朝鮮経済に及ぼした影響がモデルによって示され、社会主義経済システム自体の非効率性以上に、その貫徹への意図から生じる上述の思考様式がさらなる悪循環を招来するという構造に、北朝鮮経済の最大の特徴が存するとの結論が下されている。

## 審 査 の 結 果 の 要 旨

これまでの北朝鮮の経済政策に関する研究は、当初より分析モデルをいくつか設定し、演繹的に論を展開

するというものがほとんどであったため、緻密な資料分析が軽視され、多分に恣意的なものであった。本論文はそれらとは方法論を異にし、北朝鮮の膨大な一次資料を帰納的に解析することにより、事例を歴史主義的に時系列に沿って並置し、その内実を実証的に解明したものであるため、その論は独創性に富み、かつ大いに説得力を有している。

北朝鮮農法の根幹をなすとされる金日成の主体農法が、実際は金日成のテーゼ以前からあった諸農業政策の踏襲されたために過ぎなかったことや、金正日の登場と強い関係を有するとされてきた三大革命小組運動が中央党の政策に不服従な傾向を持つ地方党组织へのでこ入れであったこと、金日成の重工業路線がなぜ失敗し、軽工業の一層の脆弱化をもたらしたのかなどが資料分析に基づき、次々と解明されていく本論文の分析過程は痛快ですらある。

本論文のこのような成果は、徹底した資料収集に基づく堅固な帰納的研究姿勢からもたらされたものであり、今後この分野において後進の研究者に実りある方法論と多くの課題を提示し、重要な基礎研究として位置付けられるものと予想される。また本論文が北朝鮮の経済政策の全体像を追究する野心的な研究であるがゆえにここでの成果をもとにさらに深められるべき課題としては、次のようなものが挙げられるであろう。

- 1) 個別事例研究の題材に何故これらの諸課題を選択したかについての説明付けに、いまだ考慮の余地ありと認められる。諸課題の相互連関性において、一貫した整合性が看取されるよう、さらなる研鑽が期待される。
- 2) 社会主義経済システム自体よりも、そこに通底する思考様式に注目した本論文の問題意識は、社会主義システムそのものに対する考察、特にその形成と変遷の過程に関する分析を俟ってはじめて、一層明瞭に全体像を示すものになるであろう。
- 3) 事例研究より導き出された北朝鮮経済の構造的な問題点をまとめたモデルについても、モデル自体の精緻化と、事例研究の蓄積が求められる。特に論文中では断片的に言及されるに止まっていた経済規模の変動に伴う余剰人口の動向、連合企業所に代表される工業管理体系の形成などは、それぞれが個別事例研究のテーマとなりうるものであろう。

本研究の課題は重いですが、研究意欲には大いに期待されるものがあり、また今後、ソビエトや中国など、他国の事例との比較研究により、さらに大きなパースペクティブを獲得するであろうことは言を俟たない。

よって、著者は博士（政治学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。